

## 第5回 新県民体育館整備等基本計画検討会 議事録

日 時：令和8年1月16日(金)10:00～12:00

場 所：高知県立高知城歴史博物館1階ホール

出 席：委員11名中11名が出席 ※原田アドバイザー出席

出席委員：刈谷委員、寛藤委員、坂本委員、高岡委員、玉乃井委員、久川委員、  
古谷委員、前田委員、丸委員、森委員、渡邊委員

議 事：(1) 前回(第4回)の宿題返し

・各委員の主な意見とその回答

・敷地の比較整理

(現県民体育館、旧高知南中高敷地、高知ちばさんセンター)

(2) 今後のスケジュール・論点

(3) アンケート結果・サウンディング調査結果

報 告：(1) ちばさんセンター大ホールのあり方検討会の状況

### 1 開 会

#### <委員長挨拶>

・昨年の第4回から色々と報道にも取り上げられ、かなり注目を集めている議論になってきていると思う。ずっと言い続けていることではあるが、50年先を見据えて、どういう形が良いのか、建物をつくることだけではなく必ずこの先の運営までを見据えた議論を展開するというをまずはお願いしたい。この議論を進めるにあたって、これまでも納得感がないまま進んでいるのではないかと委員からも声をいただいている。ステークホルダーがどんどん増えてくる中で、初めて報道で知る内容もあるので、そういったことも含めてこの場で事務局にお願いしたいことは、透明性を持ったオープンな議論を心がけていただきたい。委員の皆さんからも些細な疑問など、すべてをぶつけ、このテーブルに置いていくことが前進するためには重要である。

### 2 議 事

#### 【(1) 前回(第4回)の宿題返し】

※事務局から「敷地の比較整理」の説明後に、坂本委員から行政のまちづくりについて  
て補足説明(以下、要約)

<坂本委員>

①高知市都市計画マスタープランに基づき説明

・潮江地域と布師田・一宮地域のまちづくり構想の違い

・潮江地域は、既存の交通ネットワークや都心に近接した利便性と集積した都市基盤を活かし、物流・交流・業務機能の促進を図るとされており、潮江地域にアリーナ建設は高知市の目指すまちづくりに合致

・都市機能誘導区域の中心拠点付近に現県民体育館が所在。

## ②他県のまちづくり事例を紹介

- ・岐阜県や佐賀県でも中心市街地に回帰したまちづくりを行っている
- ・他県の動向は、高知市都市機能誘導区域の考え方と合致

### <前田委員長>

・この委員の中には昨年のあり方検討会に参加されていない委員もいらっしゃるので、少し補足をさせていただくと、昨年度現有地という結論の時にはメインアリーナとサブアリーナぐらいの想定であった。アクセスの話は今の説明にもあったように、一番良いところということで現有地に収まった。当時の想定から基本計画に新たに追加されたものとしてはやはり集約化の話。武道館とちばさんセンターはあり方検討会の中では議論されていないところで入ってきた話と理解している。さらにはプールを入れるという話が追加され、当時の想定よりもかなり手狭になっており、アクセスに関しては、まちづくりの観点で非常に重要であるということは重々理解はしている中で、コストの面や運営について議論していかなければならない。あり方検討会の際には情報が少なかったため、まずは現有地という結果になった。また、候補地については現有地と南中高が一番最初に示されていたが、途中3回目のときに、議事録に残ってると思うが、この南中高には別の計画が入るかもしれないということもあり現有地という経緯となった。なので最初に確認したいことは、南高校の別の計画は進んでいるのかということ。

⇒県) 南中高については、現在のところ新たな計画はない。ただ、現に校舎の4階以上が避難所になっている。グラウンドについては指定管理として貸し出しを始めており、社会体育施設として使用されている。補足すると、令和6年度のときは、メインアリーナが大体今と同じ大きさ。サブアリーナは観客席がなくバスケットボールコート一面ということで議論がされてるかと思う。土地を借りるにしても高知市のグラウンドを半分程度ということで、今回新たにサブアリーナは2面ということでかなり大きい施設になっており、今までのものよりも面積が広く、その代わり高知市のグラウンドを全面利用させていただくということでいうと、昨年の議論からさらに進化した議論になっているという認識。なお、南中高4階の一部は、県内の生物標本の保管場所としての活用が決定している。

### <森委員>

・坂本委員に伺う。集約化の話やプールの話など、仮に条件がフラットだったとすると、南中高やちばさんセンターは都市計画の範囲に入るのか。

⇒坂本委員) 参考資料の5ページにある都市機能誘導区域が関係し、このエリアに近接をしてるかどうか、今後の都市再生事業などを進める上で非常に重要。アクセス性において県民体育館が近接しており、この都市機能誘導区域の端から徒歩15分程度。ぎりぎりではあるが現有地は歩いて行くことができる。このパターンで都市再生がうまくい

くかという評価指標として、歩行者の交通量がある。これがはりまや橋の周辺で歩行者が何人歩いているか。そのため、都市機能誘導区域にたどり着けるところは県民体育館ぐらい。徒歩で行くことが可能ということが国が行う事業として、ウォークアブルなまちづくりの限界でおおよそ2 km。2 km というと南中高は対象にならない。ちばさんセンターも同様。

・用途地域を見ると、南中高は商業地域。県民体育館は住居地域であり懸念されていたが、南中高は一方で距離を考えると、都市機能誘導区域から離れており現有地でさえギリギリの範囲。

<古谷委員>

・現有地でイベントを開催するときに、南中高に臨時駐車場を設けて、ピストン輸送でバスを出すという想定と思うが、もし現有地でアリーナが整備されれば、非常に駐車場の問題が懸念される中で、すごく心配なのは地下駐車場をつくった場合、30 年以内に地震、津波が来るかもしれない。南中高はリスクに関しては現有地とそんなに変わらないと思う。大規模な投資をして地下駐車場を整備したとしても地震、津波の際、全く機能しなくなる可能性がある。駐車場対策としては、南中高に建設すると良いのではと素人なりには思う。投資に対するリスクを考えれば南中高は対応可能ということで理解してよいか。

⇒県) 南中高は社会体育として現在使用している。大規模イベントのときに、臨時駐車場として、貸していただくような形を想定している。日常使いについては地下駐車場も含めて 250 台程度の駐車場を予定しており、大規模イベント時は競技団体やM I C E の関係者が優先的に使用できるような形で運用できないかと考えている。一般来場者については、公共交通機関があるので、電車で来ていただく。近隣には徒歩 20 分圏内に 350 台程度の有料駐車場もある。一番は路面電車を使い、なおかつ商店街の中をしっかりと周遊していただく。ただ単に来て、車に乗って帰るのではない形を計画したいという思いがある。また南中高についてもこれから永続的に今の指定管理を続けていくかどうかはわからない。

<刈谷委員>

・事務局が説明した現有地でまずは計画を進めていく。次に、どうしていくかという形でないと、何回やっても前には進まない。現有地でまちづくりをどういう形でやっていき、どういうものを建てたら良いかを決めていくべきと思う。

⇒県) 事務局としても現有地で議論をしていただきたい。以前の会で、委員も知らない情報があるとの意見があり、今回整理し示した形になっている。現有地を中心に議論していただきたい。

<渡邊委員>

・障害のある方の視点で考えたときに、現有地であれば、車社会の高知県で障害があり車を持たれてる方は身体障害、もしくは内部障害など運転免許を持っている方はそんなにいるわけではない。これから増えてくる知的障害、発達障害、情緒障害、そういった方のことを考えると、公共交通機関で通える場所というのは、日常のスポーツ活動や健康づくりにとっては良い。他の2ヶ所を考えたときに、南中高であればそんなに変わらない。ただ、ちばさんセンターになった場合には、バスが通ってるわけではなく、アクセスする方法が増える可能性があるのか。

⇒県) この事務局の案だけではなく県全体の話になってくるので、そのためだけに新たに路線などができるかどうかは今の段階で答えることはできない。

⇒渡邊委員) そう考えると災害のときの避難において地下駐車場も心配ではあるが、南中高の場合、障害のある方がパニックなく避難できるのか。現有地の方が良いと立地の部分については考えている。

<玉乃井委員>

・解体費は別物と思う。いずれは解体する。(南中高は) 解体費が大きいからといってこの候補地は選択肢から外すべきではないと思う。イベント側からいうと敷地面積は広いほうがいい。(南中高は) 駐車場も十分確保でき、良い場所が出てきたなというのが正直な感想。

<久川委員>

・私や玉乃井委員は去年のあり方検討会には参加していなかったが、現有地はこの狭小地の中でいろんなものが増えてきて、全部が中途半端なものにならないかを感じているところ。5,000席のアリーナに対して玉乃井委員からあったように、コンサートでは3,500席しか使えないという話もあったと思う。場所の問題を先に決めて、さらにここに持たせる機能をもう少し精査して、全部入れるというのならば、そもそもちばさんセンターは無理な話。例えばメインアリーナだけだとすれば、極端な話、ちばさんセンターも可能。そこを検討しないと先に進みにくい。私は公共施設を管理してる立場であるが、単純なイメージとして、この形はすべてが中途半端に感じている。実際四国内でも、同じ5,000席のアリーナは松山市も計画を進めており、高松に10,000席がある。エンタメは音楽に限らず、見るスポーツにおいても、5,000席ってどうなのという話とか、どんどん遡りスタート位置まで戻ってしまうのではないかという気がするので、何をどこに持っていくというところをもう一度整理して、議論を積み直す方向が私自身は良いと思う。

<森委員>

・財源の話で、集約化ができずに公適債が使えない場合、計画が崩れるのでは。

⇒県) 公共施設等適正管理推進事業債(以下「公適債」という。)を使うというのは大きな財源を確保していく上で1つの考え方ではあるが、使用する場合は廃止する施設や集約後の面積が従前の面積より少なくないといけないこともあり、まずは公適債の使用を目指していく。ただ財源の確保については、県でしっかりと考えながら取り組むべき点である。その他にもいろいろな国の制度があり、順次情報を集めながら、条件によって示していく。

#### <丸委員>

・まちづくりのウォーカーシティという点は全く異論ない。それこそドイツのミュンヘンはウォーカーシティの元祖でありオリンピックをきっかけにまちづくりが成功した事例。まちづくりの視点において現有地は賛成。ただ一方で、集約化の議論がやはり何件も積み重なっていることが、この議論の難しさだと捉えている。前回の資料だと集約化することによって除却費用も起債の対象になるという文言もあった。起債を使うための集約化の条件がどういったものなのか。わかる範囲で提示いただければ。

⇒県) 集約前の施設の延床面積の合計よりも集約後の施設の延床面積の合計が小さくなっていることが要件。全体事業費の90%に充てられ、そのうちの半分の45%が国から交付税として措置される。県は55%の負担で済むという非常に有利な起債。集約化としては武道館やちばさんセンターを受け込めないかと検討しているところ。そうなれば新施設の完成後、5年以内に旧施設の廃止が必要。廃止というのは、除却や転用、民間への売却を指す。

・プールは一般と障害のある方の機能を1つにし、延床面積が少なくなると、集約化に入るか。

⇒県) 県立障害者スポーツセンターの屋外プールについても老朽化が進み、集約できないかと検討している。新しいプールの延床面積が現有地のプールと障害者スポーツセンターのプールの延床面積の合計より少なくなれば対象。

・この起債を申請するのに高知県で回数制限はあるのか。

⇒県) 制限はない。

#### <高岡委員>

・今回この計画案が出されたのは事前に県市で協議を行った結果、この案が提示されたという認識。高知市の桑名市長からコメントでもアスパルこうちを利用する不登校の子供たちへの教育的配慮、プールの整備、地域防災力向上などの市の要望が反映された計画であり、県の提案を高く評価し計画推進を指示したもの。また、都市によっていろいろな課題がそれぞれある。当然人口構成も違い、同じ施設を整備するのではなく、都市ごとの課題を改善するような整備が必要。高知市、高知県らしい施設を目指す議論をして

いただけたらと思う。配置等ではプールについていろいろな意見があるのも承知しており、市も県の計画を評価をして推進したことも踏まえた議論をしてほしい。

<前田委員長>

・ちばさんセンターや武道館とは集約に関してどこまで調整できているのか。報道等では、県民体育館側が何が何でもちばさんセンターを集約しようという見え方になっていのではないかと。調整がうまく進んでいないように見られる。

⇒寛藤委員) 当初集約化の話が出た際に、希望を持って検討会に臨んだが、集約することによっていろんなハードルが増え、前に進んでいない印象。狭い施設に集約することによって南高校という声も出てきた。武道館に関しても従前より大きくはなっていないので、新たに武道館ができたとしても、武道が注目を浴びるとは思わないが、高知らしさというところではコンパクトな計画に賛成している。ひとまず建設地を固めないとは進まない。

⇒県) ちばさんセンターについてはあり方検討会で別途検討中。県としてはちばさんセンターを集約しないと公適債は使えないと見込んでいる。そのため、ちばさんセンターの機能をしっかり集約できるような施設を目指している。その上で導線や搬入搬出等の具体的な課題もいただいており、計画を整理し催事を行う関係者にも説明し、最終的な判断は産業振興センターのあり方検討会に委ねる。

<原田AD>

・南中高の敷地はアリーナの建設において校舎の撤去は必須。グラウンドが校舎の影に隠れており、緊急避難場所や避難所、生物標本の保管場所等の問題が出てくる。またメインのアクセスは正門のみとなり、サブグラウンド付近にはかなり細い道路があるが、アクセス道路にするには道路整備が必要。その道をメインにする気持ちがあるならば、校舎を壊さずに施工可能かもしれないが、かなりハードルが高い印象。ただ、用途地域や敷地面積は魅力的でまちづくりと連動させながら、広域な開発も可能。

・現有地は、徒歩20分で約1.5kmであり十分歩ける距離。ウォークブルシティを念頭に置けば場所としては悪くない。SAGAサンライズパークの事例では、佐賀駅から4kmの位置にあり、自転車専用道路も整備し、交流が増えている。アリーナができてから佐賀駅にはレストランが増え発展した。アリーナができてからまちが活性化した良い事例である。はりまや橋と現有地の間に、プロムナードのような開発ができれば、まちづくりの視点として興味深い。一方で、コンパクトな敷地に機能を詰め込みすぎており、アリーナとプール、武道場等の関係で運営方法に懸念。施設を分離して経営を行う等の方法もあると思う。屋上部分においてもスポーツ施設を整備することが可能。立体的な開発を視点に入れた計画が必要になる。

<前田委員長>

・最新案では地下駐車場も含めて事業費は約 210 億円。公適債を活用するというところで、仮に集約化をしないということになれば、南中高にメインアリーナを整備し、南中高の改修中の体育館も残し、校舎も残すという選択肢もあるのではないか。プールは現有地に残すことが必須と言われているが、今あるプールをうまく残すことができれば、コストダウンに繋がる見方もできるのでは。

⇒県) 南中高跡地については、面積的には問題ないと思うが、県の内部でプロジェクトチームを結成し、まずは生物標本の保管場所として使用すると決めた。南中高については、すでに使用している部署があり、この検討会の中で使えるかどうかの回答はできない。今の県民体育館のプールを現有地に残すということについても、物理的にはあるかもしれないが、すでに老朽化しており、毎年修繕を重ねている状況。残すことにはならない。現有地と南中高の 2 箇所に分けて立てることは、コスト的には高くなると想定する。

## 【(2) 今後のスケジュール・論点 (3) アンケート結果・サウンディング調査結果】

<坂本委員>

・アンケート調査について、私も社会調査の研究をたくさんし、プロジェクト評価や社会基盤整備などの研究もしているが、重要なのは、今後できたら行ってみたいなどは SP 調査にあたり、この調査は実はできたら行かないかもしれないというケースも結構ある。要は運用であり、運用をどうするかが非常に重要になる。逆もある。最初は全然興味がないが、完成すると意外と良いよねというパターン。アンケート調査の結果や割合、ポジティブな意見やネガティブな意見のすべてに捉われず、柔軟により県民が使いやすい施設にするにはどうすればいいかといった運用方法をぜひ検討いただきたい。そうすることによって、意外と良いよねという評価に変わる可能性も十分ある。逆もあり、調査の使い方と結果を、上手く活用いただきたい。

## 3 報告

### 【(1) ちばさんセンター大ホールのあり方検討会の状況】

<森委員>

・直近のあり方検討会の議事録にもあるようにメリットデメリットの整理が不可欠というような意見も出ている。ちばさんセンターを集約化することで、ちばさんセンターが今の場所になくなることのデメリットはこちらではなかなか判断つきかねる。財源で言うと、集約化をしなければ公適債が使えないことが圧倒的。今後アリーナとちばさんセンター両方を展開することで、今後も維持管理にコストがかかる。運用に関しては別途シミュレーションをしていると伺っており、現有地で進めるにあたって、集約化がで

きた場合がメインの計画となり、今後もし集約ができなかった場合は公適債は使えないが、コンベンション機能を集約することで現状無理が出てるので、そこはメリットになるかもしれない。両方のパターンによってメリットデメリットを整理したものが共有できれば良い。

⇒産業振興センター) 13日に行ったあり方検討会の議事要旨の中で、メリットデメリットの意見がある。ちばさんセンターの大ホールを建て替える場合と県民体育館に集約した場合のちばさんセンター側のメリットデメリットは何かといったことをしっかり示し議論をしてもらいたいという意見。それと集約化に関しても、委員から意見が出ており、集約する場合、ちばさんセンターは底地は県有地であるが、建物自体は、当財団所有の建物であるため、建物の県有化が必要と回答している。

<古谷委員>

・ちばさんセンターの年間の修繕費はいくらか。

⇒産業振興センター) 本来であれば修繕費は積み立てるべきであるが現状は積み立てていない。県や市の財政負担をいただきながら実施している。ちばさんセンターの大ホールと研修棟と事務所棟すべて老朽化しており、長寿命化により耐用年数を40年延ばす工事を行った場合にかかる費用が、約8億円強と見込んでいる。またあり方検討会でも結論は出ていないが、もし大ホールを廃止することになったとしても、県民体育館が供用開始されるまでは、最低限維持する必要がある、そのための緊急的な工事は前回の13日の会議で必要ということは説明し、承認を受けているところ。

・今後高温多湿化していくと建物の劣化はますます進み、修繕費は積み上がっていく。もし集約化されるとなると、現有地でアリーナができた後、5年以内に既存のちばさんセンターは解体することになる。そうすると今から8年ぐらいはまだ現地で使用できるということになる。武道館も同様。となると、新しい建物と従前の建物が両輪で運営する時期も出てくる。その中でどれだけ人口減少が起こるのかということも、考えながら検討会に臨んでいる。集約化されてもすぐに従前の施設を壊さなければならないということではないという認識。

⇒県) 公適債の制度上の話で、集約後5年以内に従前の施設を廃止しないといけないという決まりがある。ただ、一方で指定管理代行料、つまり県の財政負担で施設を運営しており、一時的とはいえ、両方の施設に県が指定管理代行料を払うということになる。重複して払うことが妥当なのか当然県としての判断もあり、あくまで5年というのは、制度上の話である。

<原田AD>

・集約化を行った場合に事務所や倉庫はどのくらいの広さが必要か

⇒県) 基本計画の委託事業者であるJVに設計事務所が入っており、来年度以降の設計

段階に入ったときに事業者から提案があるため、今決め切るものではないが、現有地でどれぐらいの倉庫を確保できるかや事務所をどこに置きどれぐらい確保できるかなどのモデルプランを作成中。今後そういったモデルプランもこの検討会の場で提示できればと考えている。

・現代のアリーナは、かなり広く貯蔵スペースを確保しているところが多い。想像以上にフロア以外の倉庫機能が重要になる。その点も他県の事例を参考にし検討いただければ。

<玉乃井委員>

・ちばさんセンターの稼働率はどのくらいか。年間約 50 週ある中で、Bリーグが来ると、約 60 ゲーム。ホーム&アウェイで 30 ゲームなので、週末 15 週をまず Bリーグが使用すると残りの 35 週をコンサートやその他のイベントで調整するという。MICE や展示会も週末を希望すると思うので、予約の取り合いが懸念される。  
⇒産業振興センター) 直近でいうと、令和 6 年度の利用件数は 24 件で稼働率は 21.6%。件数は 24 件であるが、利用日数は 1 週間を超えるものもあり、延べ日数はもっと多いことになる。3 年度から 6 年度の平均利用日数でいくと、79 日。

<前田委員長>

・ちばさんセンターのあり方検討会の委員長のコメントで、搬入導線等への対応を懸念しているように受け取れるが、どこまで詳細を出すことができれば、ちばさんセンター側での検討がしやすくなるのか。先ほどのモデルプランを見て判断されたいという内容にも見えるが、そういう準備が必要という理解か。  
⇒産業振興センター) 前回あり方検討会の中で、県民体育館の説明をいただいたが、搬入搬出の導線、道路からどのように入ってくるのか、という具体的な図面ではなかった。例えば、大型の展示会で県と一緒に主催しているものメッセ、ものづくり総合技術展で言えば、約 100 社出展企業があり、搬入時は分散して時間調節をしながら行うため混雑はあまりないが、イベント終了時は 100 社の車が同時に行き来することになり、渋滞がかなり起きるのではないかという心配がある。

・加えて、駐車場の懸念があると思うが、仮に地下駐車場が整備できないという形になると、やはりちばさんセンター側としても、この集約に応じることが難しいという判断なのか教えていただきたい。  
⇒産業振興センター) (メインアリーナは) 規模的には対応可能だと考えており、検討会の委員も、概ねその考え。来週には大きな展示会があり、駐車場が緑地公園部分もすべて使用し 800 台の車両を想定している。そこが現有地で調整できるのか心配する委員も当然いる。

### 【委員長まとめ】

・検討会をまとめていくにあたって本当にいろんな意見を本日いただけたと思っている。建設場所に関しても、決めないと次に進めないという話もありました。一方で最新案の現有地はすべてが中途半端だという懸念が拭えないことが、前に進めない原因になっている。また、費用に関しては、集約化は今岐路に立ってるタイミング。できるだけすべての数字や、ちばさんセンターからもあった搬入搬出といった機能の部分、あるいはその周辺の渋滞などもすべてオープンにし議論していかないと前に進まないと考えている。このまま今の現有地で進めるかという、私は客観的に皆さんの意見を聞いていると、まだ検討の余地が非常にあると判断するしかないと思っており、これからの検討会もできる限りの情報をしっかり出していただきたい。費用比較が作成できるのであればお願いし、しっかりと検討していただくことで、場所の決定も含めて、今後も時間をかける必要がある。

### <事務局>

・議論が少し遅れてきており、委員長からあらゆる数字を示してという意見があったが、出せるものと出せないものがあり、精一杯整備コスト等準備をしていきたいと思う。本日の皆さんの意見で、最終の建設地について、南高校という意見もあるが、多くの方が現有地でまずは検討するべきとの意見だったと受けとめ、次回以降最新案に基づき、ちばさんセンターから指摘のあった導線や駐車場の考え方をしっかりとお示ししたい。

・また、論点について議論ができておらず、順次出しながら、意見をいただく。

・本日公開したスケジュールについて、3月までということで検討会を立ち上げた当初から目標を立てて進んでいるところ。ただ、今後議論すべき項目が複数あり、期間についてはフレキシブルに対応を検討する。

## 3 閉会